

# 7月の県内景況調査結果の概要

## 1. 主要指標の前年同月比D I 値の動き

元年7月のD I 値は8指標中4指標が上昇。特に「収益状況」においては2桁の大幅な上昇。「景況」「設備操業度」が横這いであり、残り2指標は下落となった。

## 2. 県内中小企業の景気の現状

自動車販売整備業や生コンクリート業では引き続き需要が順調。貨物運送業においてもお中元や飲料品関係の荷動きが堅調であった様子。また家電製品小売業においても冷蔵庫等の主要家電の買い替え需要が好調であるとの明るい報告も寄せられた。

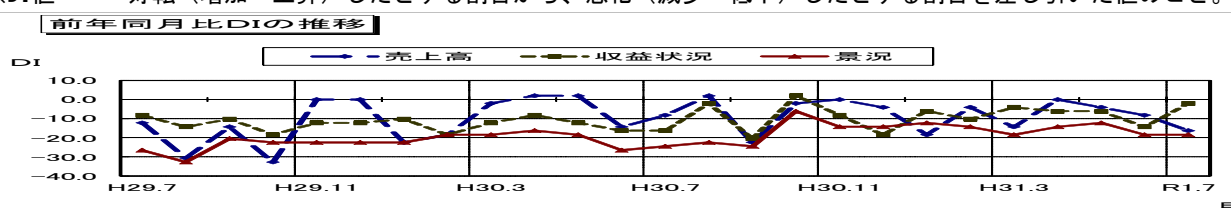
一方、慢性化する労働力問題をはじめ、依然として続く原材料高や燃料価格の高止まりや、消費増税や働き方改革への対応を懸念する声も寄せられた。

景気は緩やかな回復を続けていると言われているものの、エスカレートする米中貿易摩擦や日韓関係の悪化など緊迫する国際情勢等による国内外経済の下振れリスクが存在しており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

	H30 7月	8月	9月	10月	11月	12月	H31 1月	2月	3月	4月	R1 5月	6月	7月	前月比 増減
景況	-24.5	-22.4	-24.5	-6.1	-14.3	-14.3	-12.2	-14.3	-18.4	-14.3	-12.2	-18.4	-18.4	0.0
売上高	-8.2	2.0	-22.4	-2.0	0.0	-4.1	-18.4	-4.1	-14.3	0.0	-4.1	-8.2	-16.3	-8.1
収益状況	-16.3	-2.0	-20.4	2.0	-8.2	-18.4	-6.1	-10.2	-4.1	-6.1	-6.1	-14.3	-2.0	12.3
販売価格	6.1	8.2	10.2	6.1	4.1	6.1	4.1	12.2	4.1	6.1	8.2	6.1	4.1	-2.0
取引条件	-8.2	0.0	-6.1	-2.0	-4.1	-2.0	-2.0	-2.0	-4.1	-6.1	-6.1	-4.1	-2.0	2.1
資金繰り	-14.3	-12.2	-12.2	-2.0	-4.1	-10.2	-10.2	-6.1	-8.2	-10.2	-6.1	-10.2	-8.2	2.0
設備操業度	-8.2	-8.2	-10.2	-2.0	-6.1	-6.1	-4.1	-4.1	-4.1	-4.1	-4.1	-6.1	-6.1	0.0
雇用人員	-14.3	-14.3	-14.3	-8.2	-10.2	-14.3	-8.2	-8.2	-8.2	-14.3	-2.0	-8.2	-2.0	6.2

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



## [景況関連の報告]

### 【製造業】

#### <食料品>

1. 味噌・前年同月比、みその生産量は95.0%出荷量は98.9%となった。みその生産量、出荷量とも100%を割れた。例年この時期は下降傾向なのでとくに問題ないが、梅雨明けの猛暑が続くと売上げに影響する。しかも主要原材料の米の価格は依然高値で推移しており、収益面は厳しい状況が予想される。
2. 漬物・漬物製造業者では日本人の食生活の変化等により売上の減少に歯止めがかかっている。野菜生産農家では7月の天候不順による影響で収穫数量の減少がみられる。両業種とも若年者の労働力の不足により技能実習生に頼らざるを得ない状況が続いている。

#### <繊維・同製品>

3. 縫製・生産性については、もともと効率の悪い業種であるにもかかわらず、改善の選択肢はきわめて少ない状況のままであるなか、新設備導入で打開できるかの検討が急がれている一方で、ヒューマンエラー対策として教育訓練を実施の他、システム変更等で生産性の向上が急がれる。売上、収益については、前倒し受注増による経費がコスト高に推移している。国内市場の頭打ちの感は相変わらずで、将来の景気回復への見通しは引き続き厳しい状況下だが、医療用靴下への参入を検討する企業もある等期待感もある。
4. 縫製・市場の低迷。

#### <木材・木製品>

5. 製材・全般的に景況感が改善する見通しは全く見られず、厳しい経営が続いている。
6. 木材・原木丸太出材量依然多い状況が続いていて取扱い数量・金額ともに10%の増となっていて、市況がやや弱含みに展開しているが売上げ増となっている。一方各製材所、製品需要が低迷している中、今一つ盛り上がり欠け、厳しいとの声が多く聞かれる。
7. 木材・県内の内地材製材業者が年々少なくなっている。阿南市の新王子製紙の操業削減決定により製造紙を乗せるための木製パレットの受注が今年をもって激減する模様。不況風が一層強まりそうである。

## <印刷>

8. 印刷・7月は定期的な行事が少ない閑散月になる。お盆や阿波踊りをひかえ、海開き、花火大会、夏祭りが開催されているが大きな需要には結びついていない。もっと色々なアプローチを試し、経済活動を活発にして需要を掘り起こしていかなければならない。また、用紙価格の高騰も価格転嫁には進んでおらず。用紙の供給不足もまだまだ続きそうである。引き続き益々厳しい状況が予想される。
9. 印刷・年初の印刷用紙の値上げから半年が過ぎ、夏場にかけて用紙の流通量、在庫量共に増えてくると予想されていたが、まだまだ不足気味の種類も多い。しかしながら一方で受注は低調であり、相変わらず供給過多の状況に変わりはないようである。販売価格も下降気味である。全国的にパッケージ系を中心に一部需要が回復してきたが、出版印刷物が減り続けており、絶対的な出荷額は減少している模様である。また関連を含む業界全体では人材確保に苦戦している様である。

## <窯業・土石製品>

10. 生コン・7月は昨年同月と比較して約50%程度増加。災害復旧工事は思うように進んでいないが、トンネル工事は順調でトンネルの舗装工事の関係が動き出しており、その分だけ出荷が増加したような状況。
11. 生コン・7月の出荷数量は、対前年同月比32%の増加となった。要因としては、出荷数量が前年同時期と比較して、官工事での四国横断道路関連工事などによる出荷増による。今年度の出荷数量についても、数量的には前年を12%上回った。

## <鉄鋼・金属>

12. 鉄鋼・業況感に大きな変化はなく、概ね横ばい状況で推移している。また、設備操業度などにも大きな変化は見られない。引き続き、米中貿易摩擦などの海外経済情勢の先行き不透明感もあり、景気回復の実感は薄く、今後の景気動向が注視される場所である。また、依然として人材不足で必要な技術者などの確保が課題となっている。
13. ステンレス・国内の設備投資は引き続き大手を中心に堅調な推移となっているが、海外情勢の影響による先行き不透明感が継続していることなどから、今後は企業の設備投資に対する姿勢が慎重になる可能性もある状況。

## <一般機器>

14. 機械金属・全体として、売上高や引合いなど良好な水準を維持しており、景況感に大きな変化は見られない。引き続き、米中貿易摩擦、韓国への輸出規制など世界経済を巡る様々なリスクから、将来に対する不透明感は依然として強く、景気回復の実感に乏しい。また、熟練技術者をはじめ従業員の確保難、原材料価格その他の経費の増加、需要の停滞などが、直面する経営上の課題として見受けられる。

## 【非製造業】

### <卸売業>

15. 各種商品卸・人口減、高齢化による絶対需要の減少が、県内及び四国の業界全体に感じられる。

### <小売業>

16. ショッピングセンター・売上高の前年対比は全店計92.5%（既存店90.4%）、客数93.6%（既存店89.4%）だった。新店を入れての92.5%なので、大変悪かったとしか言い様がない。業種別には特に衣料品関係が悪く、昨年10月と11月の暖冬で冬物・防寒衣料の動きが鈍かった事が思い出される。7月も前半は雨天の日が多く衣料品の動きが遅かったと思われる。野菜・果物においても日照時間が少ないとその成長に影響が出るのと同様で、夏は暑い、冬は寒いでないと小売業界においても需給のバランスが崩れる。7月後半より晴天が続き気温も上昇中だ。台風の直撃がなく、晴天が続けば好転すると期待している。

17. 電気機器・エアコン、冷蔵庫、洗濯機等の買い替え需要が支えになり順調な動きである。

18. 豊小売業・梅雨入りが遅く、前半は現場の仕上がり順調だった。また梅雨明けが遅かった分、一般家庭の仕事の注文が少なかった。カビ、ダニなどのクレームが少なかった。

### <商店街>

19. 徳島市・7月は梅雨明けが遅く、夏のセールも来店客が少なかった。

20. 徳島市・新しく飲食店が1店オープンした。

21. 阿南市・夏祭りを開催も変化なし。

### <サービス業>

22. 土木建築業・7月の状況は、去年に比べ工務課の新直轄、道路管理課の橋梁補修、構造物修繕工事が多く発注されている。交通対策課の業務量は、去年と大差は無く、件数もほぼ同じ。各課とも、発注業務・工事とも随時行っている。官側の働き方改革により、実質稼働時間（残業時間）は減少している。強制的に残業作業の禁止（事務室から退室さされる）しかし、残業作業時間の短縮により業務の遅延が出てきており、自ずと、工期が長く設定されるようになってきた。  
10月の消費税増税に伴い、変更契約の手続きをはじめている。変更日は平成31年4月1日にさかのぼり、8%→10%の差、2%の増額。4月～9月の6ヶ月は8%なのに、4月1日契約日から10%とし、2%の増額分を変更契約するようだ。

23. 自動車販売整備業・登録車（普通車）の新車登録台数は対前年同月比17.2%の1,664台、中古車は9.5%の507台、合計では15.3%の2,171台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比14.3%の1,365台、中古車10.1%の501台、合計は13.2%の1,866台である。登録車・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比14.3%の4,037台と増加。登録車・軽自動車共に好調で、登録車は15.3%増、軽自動車は14.3%増。特に登録車の新車販売台数は17.2%増で、過去5年の中でも最も多い。収益情報については、整備部門において継続検査の台数が軽自動車はほぼ同じであるが、普通車は10.7%増加した。

24. 旅行業・7月は特に変わったことはなかった。

25. ビル管理業・特に大きな変化はない。ただ近年、取引条件がほとんど変化しない中、最低賃金の引き上げが続いている。（H25年・654円→H30年・766円）H30年10月から新規改定額が適用されることとなり、これに伴う影響が現れて来ている。更に、働き方改革への対応、労働需給の逼迫、社会保険（厚生、健康）のあり方に関する動向等多くの課題に包まれている状況だ。

#### <建設業>

26. 建設業・国土強靱化や徳島県強靱化等により、4～7月末の累計では、請負額で約16%増となっている。県下全体でも約488億円となっている。国土交通省工事では、不調・不落工事が多くなってきている。また、県内地域間格差が出てきている。積算の見直しと発注時期や施工時期の平準化が急務である。また、新担い手3法が示され、その対応に苦慮することが予想される。

27. 電気工事業・新設住宅口数は241件であり、対前年比77.4%と減少した。

28. 板金工事業・仕事量は少し落ち着いてきたようだ。

29. 解体工事業・民間解体工事については、徳島市内を中心に前年度より増加傾向となっている。徳島市外地においては、発注件数についてはまだら模様である。公共解体工事については、入札予定件数、金額とも非常に少ない。

#### <運輸業>

30. 貨物運送業・一般貨物輸送は、梅雨明けまでは昨年並み、その後は猛暑によりビール等の飲料関係が増加となった。また働き方改革どおりのことを実行するとなると、現状慢性的な運転手不足であり、運賃は転嫁できず、運送業界は大赤字となり運営ができなくなる 旨の声あり、政府はこうした現状を把握しているのだろうか？軽油単価は前月比 約1円上昇となったが、今後も現状水準で推移してもらいたいものである。

31. 貨物運送業・気温によって出荷量の変動しやすい飲料関係であるが、7月前半は雨が多く気温が低いため出荷が少なく、後半は猛暑となったがさほど伸びなかったようである。お中元、通販などは概ね例年通りで順調。燃料価格は高止まりを続けている。